



第8図 トルネード-低気圧に沿って
生ずるトルネード-家族 (藤田)

は14号台風の中心を示す。この写真でもわかるように、Bのセルはバンドとの関連性はなく、独立して発生、発達したものと思われる。

以上3群のたつ巻とセルの移動経路を第7図に示す。図中破線で示した矢印はたつ巻に関連したセルの移動方向を示し、実線の矢印はたつ巻の経路を示した。dを除くいずれのたつ巻もセルの移動経路に対して左側にそれている。第7図に関連して藤田(1958)³⁾のトルネードの解析を第8図に示す。

トルネード-のレーダー観測では渦状エコーは上座の

トルネード-低気圧の中心を取り巻く強風帯に相当し、地上に現われるトルネード-はこの低気圧場内の二次的循環と考えられている。一般に地上のトルネード-は低気圧経路の右側に発生し、経路を横切って左側で消滅する。最初のものが消える頃第2のものが右側に現われ、一般に一個のトルネードが発生してトルネード家族を構成する。この論文のような渦状エコーは本調査の場合観測されなかったが、第7図のようにA・B・C3群のたつ巻の経路とセルの経路をみると、セルの進行方向の右側で発生し、経路を横切って左側で消滅している点、及び1個のセルに対して2個ずつのたつ巻(cを除く)の発生している点など、前記トルネード-低気圧に沿って生ずるトルネード-家族と似たような性質がうかがわれる。

終わりに当たって本調査中終始ご指導頂いた大谷観測課長、立平レーダー係長に、また資料収集に協力頂いた浜松測候所堀技官に厚く感謝致します。

参考文献

- 1) 堀 正義, 1962: 14号台風下のたつ巻, 東部地区研究会
- 2) 石井甚之助, 1962: 8.26 御前崎のたつ巻, 東部地区研究会
- 3) T, Fujita 1958: Tornado Cyclone Weather Conference K.13.

気 象 界 消 息

1. 内川氏ヨーロッパに出張

気象庁高層課の内川規一氏は、第3回気象電気国際会議出席ならびにヨーロッパ諸国の空中電気研究所において気象電気ゾンデ比較観測打ち合せのため、5月4日から17日まで、スイス、ベルギー、ドイツに出張された。

2. 北川氏ヨーロッパおよび米国に出張

気象研究所高層物理研究部第四研究室の北川信一郎主任研究官は、第3回国際空中電気会議に出席ならびにヨーロッパ諸国および米国の気象電気関係研究機関において研究調査のため5月4日から10月1日まで、スイス、イタリア、西ドイツ、ベルギー、米国に出張された。

3. 栗原氏米国に留学

気象研究所、予報研究部の栗原宜夫研究官は、大気大循環の理論的解析研究のため、5月16日から1年間、米国気象局に留学された。

4. 吉武氏アメリカ、ヨーロッパに出張

吉武素二理事は、5月20～23日にワシントンで開催される湿度制御についての国際シンポジウムに出席、ならびに欧米における湿度測定技術、および気象観測技術視察のため、アメリカおよびヨーロッパに、5月18日から6月9日まで出張された。

5. マーカス島の気象観測廃止

1951年2月15日から行なっていたマーカス島の気象観測は今年(1963年)6月30日で廃止することになった。